

令和6年7月18日



大豆情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

7月中旬に梅雨明けが見込まれますが、梅雨明け後は高温少雨の天候が予想されます。7月下旬以降に播種する場合は、土壌水分や播種後の天候に留意して、確実に出芽・生育するように気をつけましょう。

1 遅播きでの播種のポイント

- ・土壌水分が適度になったら早急に播きましょう。
- ・うね立て播種を基本とします。
- ・生育量を確保するため播種量を増やします(こよみ参照)。
※播種前に播種量の設定を確認しましょう。
- ・基肥を窒素成分で2kg/10a 施用しましょう。

【冠水等で播き直しが必要な判断目安】…健全株が7割以下と見込まれる場合

- ・播種後出芽までに長時間冠水した場合、出芽の可能性が低くなります。また、冠水により株に泥が付着したままだと、枯死する危険性が高くなります。

- ・種子の浸漬処理が、播種後の湿害回避に有効です。

①網袋に2~4kgの種子を入れて水に10秒浸漬→②30秒程度水切り→
③パレット上に平らにならし(4袋程度/パレット)て30分間風乾→④パレットごとブルーシートで包み、72時間静置(種子水分15%前後が目録目安)

2 播種後の天気予報に応じて播種の深さを調整

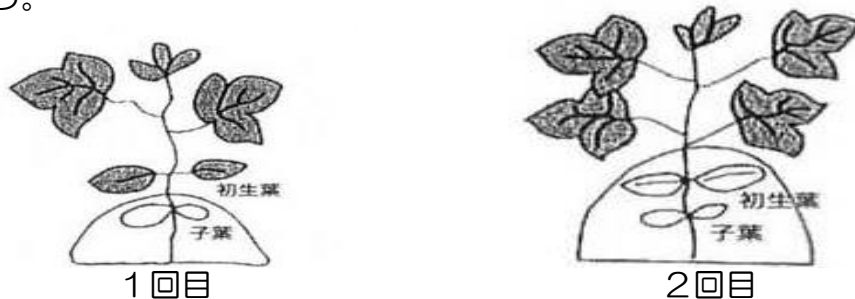
- ・土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整しましょう。
- ・適度な土壌水分がある場合、播種の深さは3cm程度を基本とします。
- ・土壌が乾き、天気予報でしばらく降雨がない場合は、基準よりやや深く(5~6cm)播種し、強めに鎮圧するように設定しましょう。
- ・播種後1日以内に大雨の予報がある場合、播種は控えましょう。

3 排水および乾燥害対策

- ・排水不良のほ場は、**周田溝と畝立て溝を設置して排水口とつなぎ**、麦わらの詰まりを確認するなど、排水対策を徹底しましょう。
- ・**梅雨明け後の乾燥害に注意しましょう。**乾燥害軽減として、**出芽後に暗渠栓を閉め、地下水位を高く維持する**ことも有効です。

4. 中耕・培土

中耕・培土は、雑草対策や倒伏防止、排水対策、不定根の発生促進などの効果が期待でき、多収栽培のためには、重要な作業です。下記の表を目安に実施してください。なお、ほ場の表面排水を促すために中耕・培土後の明きよの整備を行いましょ。



【中耕・培土の目安】※雑草の多いほ場は、中耕をできる限り早めましょ。

1回目	本葉3葉期に子葉節まで培土（播種後約2週間目頃）。
2回目	本葉5葉期に初生葉節まで培土（播種後約3週間目頃）。

5. 雑草対策

雑草の種類によって除草剤の効果が異なります。種類を確認して防除を行いましょ。

除草剤名	対象雑草	処理時期	使用量	希釈水量 /10a	使用回数
ポルトフロアブル	一年生イネ科雑草 スズメノカタビラを除く	イネ科雑草 3～10葉期 但し、収穫30日前まで	200～ 300ml	50～ 100ℓ	2回
大豆バサグラン液剤	一年生雑草 イネ科を除く	大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	100～ 150ml	100ℓ	1回
アタックショット乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) 但し、収穫45日前まで	30～ 50ml	100ℓ	1回

※ 周辺に水田がある場合は、水稻にかからないように注意してください。

※ アタックショット乳剤は、**アサガオ類が蔓化する前までに**茎葉全面散布するのが有効です。散布後、一過性の薬害（褐変、縮葉等）が生じますが、次第に目立たなくなります。

★農薬を正しく安全に使用しましょ！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳

